

祖父・父ともに日本歯科大学卒業の歯科医師。成田本人も日本歯科大学を卒業して歯科医師になり、他院に勤務するが、卒後2年で急遽、父親の後を継ぐことになる。

成田歯科医院  
埼玉県さいたま市大宮区吉敷町1-91 成田ビル1F



## #1 インタビューで探る！ 成田氏のラーニングカーブ

### 祖父から続いた歯科医院で地域の患者を幸せにしたい

#### 「祖父や父と同じ日本歯科大学に」

成田の家庭は、祖父の代から埼玉県大宮市に続く歯科医師の家系。両親は何も言わなかったが、幼いころから、祖父母からは、祖父・父と同じように日本歯科大学に進学して、家を継ぐように言われていた。そして、中学校二年生のとき、成田は自分も日本歯科大学に進学し、歯科医師になるということを決める。幼いころは、歯科医院と住居が一緒で、そこで祖父や父が患者に感謝される背中を見てきたことが大きなきっかけとなった。大学受験では日本歯科大学しか受験しなかった。結果は合格。そして、国家試験も合格し、歯科医師になることができた。目標は達成した。だが、その目標達成後、具体的に歯科医師としてどうしたいのかは、まったく考えていなかった。

#### 「患者が少ない、技術も足りない、の悪循環」

大学卒業後、電車で通勤したくないという理由で、成田は実家の近所にある歯科医院に勤務する。このとき、院内技工士として同期で入ったのが、今でもともに仕事をする五十嵐 智氏(現 correct-design)である。臨床は楽しかった。技術を磨いて自分ができる限り最高の治療を提供することが患者を幸福にするための唯

一の道と信じ、五十嵐氏と一緒に勉強し、何度も議論を繰り返した。

ただ、この状況は長くは続かなかった。勤務して2年が経ったころ、父親がガンで余命半年の宣告を受けたことから、成田は実家の歯科医院を継ぐことを決める。だが、帰った実家の医院は、患者が1日に10人も来院しない状況だった。その患者も義歯に関する治療ばかり。勤務していた歯科医院は、インプラントや歯冠修復がメインだったため、成田は義歯の経験がほとんどなかった。義歯が痛いという患者のために義歯を再製作しても、やっぱり痛いと言われる。

「自分では一生懸命やっているのに、それでも痛いと言われて、どうして良いのかわからなくなった」

勤務医時代は、自分の技術を高めていけば良いと思っていた。だが、患者が来院しなければ、それを発揮する場所もない。また、その拠り所の臨床技術も、2、3年目ではまだまだ足りない。完全に悪循環に陥っていた。

#### 「なぜ、わかってもらえないのか」

こんな状況では当然赤字である。このまま患者が来院しなければ医院を潰さざるをえない。だが、休診日をなくし、診療時間を延長しても、患者は増えなかつ

た。当時、技術を学んでいけば、自然と患者は来院すると考えていた成田は、マーケティングや経営のセミナーは邪道というイメージをもっていたが、背に腹はかえられず、葛藤がありつつも参加した。さらに、なけなしのお金で経営コンサルタントから経営診断を受けても、場所が悪いので移転しないと無理です、とだけしか言われなかった。だが、この言葉が成田にとって大きなきっかけとなった。

「祖父の代から続いたこの場所を守りたい」

と覚悟ができたのだ。それからは、心の葛藤を封じ込めて、経営セミナーで聞いたことを何でも試すようになった。すると、徐々に新患も増えていった。

だが、そうなるもまた別の問題がでてきた。患者と治療方針で対立することがでてきたのだ。また、患者が増えてくれば、スタッフも雇う。そして、人が増えれば軋轢も生まれる。スタッフが、自分の歯科医院が嫌だからという理由で辞める経験をしたとき、成田は大きなショックを受けた。

「自分は患者さんのために一生懸命やっているのに、なぜそれをわかってくれないのか」

この2つの問題、実は根底が一緒だった。自分が良い診療をしてあげれば、患者は絶対に満足してくれると思っていた。それが、良い医療だと信じ切っていた。しかし、患者はそれぞれのゴールをもっているのである。そのゴールに向かって導いてあげることで、初めてその患者が納得してくれること、そしてそれこそが良い医療なのだと知った。スタッフに関しても同様である。考え方はそれぞれなのに、自分は正しいと考え、それを押し付けていた。

「患者さんに対しても、スタッフに対しても自分本位だった。もっと相手の意見を真摯に聞く必要がある。自分が変わらなければいけないと気付いた」



## 「義歯はだれが製作しても痛いもの？」

実家に戻ってきて7年が経過するころには、勤務医を雇える程度には経営も安定してきた。そこでSJCDや5-D Japanのコースを受講して、フルマウスを基本から学ぼうと考えたという。このとき、講師の先生方が総義歯をベースにフルマウスの説明をしていた。しかし、成田は義歯の知識に乏しく、あまり理解できない。さらに、医院を継いだ当初、義歯治療がまったく上手くいかなかったイメージも強く、「義歯というのはだれが製作しても痛いもので、下顎から外れない総義歯なんてありえない」

と考えていた。そんなとき、あるきっかけから、深水皓三氏(銀座深水歯科)が主宰する総義歯コースに参加し、そこで実際の患者に装着された外れない義歯を目の当たりにし、成田の中の総義歯に対する常識は完全にひっくりかえった。ちょうど同時期、五十嵐氏も総義歯に興味をもち始めたのも重なり、現在は一緒に本気で総義歯も勉強をしている最中だという。

成田は地元の大宮が好きだと語る。ずっとここで、祖父から続いた歯科医院で、地元の患者を相手に診療を続けていきたいのだという。

「幅広い年齢の患者さんに対して、自分ができる範囲でオールマイティにやっていきたい。子どもたちのためにメンテナンスのシステムをしっかりと作って、義歯の患者さんには、以前、自分が作ってしまった拙い義歯を、きちんと噛める義歯にするのが自分の責任」

### 略歴：

1976年 埼玉県生まれ  
2001年 日本歯科大学卒業  
2001年 さいたま市歯科医院勤務  
2004年 成田歯科医院院長就任

### 所属学会：

日本歯周病学会、日本口腔インプラント学会、日本抗加齢医学会、日本メタルフリー学会